

	公表	事業所における自己評価総括表
--	----	----------------

○事業所名	多機能型事業所手柄ひまわりホーム		
○保護者評価実施期間	2025年12月8日	～	2025年12月27日
○保護者評価有効回答数		36	(回答者数)
			22
○従業者評価実施期間	2025年12月8日	～	2025年12月27日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数)
			5
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月15日		

○ 分析結果

	事業所の強み (※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、活動室と食事スペースを明確に分けて運用するようにしたこと。子どもたちが子どもの様々な活動に集中し、しやすい環境づくりが進んだ。活動と休憩・食事の場メリハリが生まれ、見直しを持って過ごせるようになったことは大きな強みである。 また、部屋全体のスペースを広く確保できたことで、子どもたちがゆったりと安心して過ごせる空間となり、個々の利用者に応じた支援がより行いやすくなった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの特性に合わせた空間づくり（静かに過ごせる場所、体を動かせるスペースなど）を意識し、選択肢を持って過ごせるよう工夫している。 ・視覚的な見直しを持てるレイアウトにし、活動の流れが理解しやすいよう視覚支援で表示を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動内容に応じたレイアウトの工夫や、子どもが自分で選択できるコーンづくりなど、より主体的に過ごせる環境づくりを進めることで、支援の質をさらに高めていく。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが安心して通ってきているという声が多く、日々の活動を楽しみに行っている様子が見られる点は、当事業所の大きな強みである。また、支援内容についても「わかりやすい」「安心できる」「楽しく参加できる」といった肯定的な意見が多い。これらの結果から、子どもが安心して過ごせる環境づくりや、個々の特性に応じた丁寧な支援が、利用者の満足度向上につながっていると考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・お迎えの際には保護者へ子どもの様子を丁寧に伝える時間を設け、日々の活動内容や気持ちの変化を共有することで、家庭との連携を深めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで築いてきた保護者との信頼関係をさらに深めるとともに、関係機関との連携をより密にすることで、一人ひとりに合った支援体制の強化を図る。また、保護者が気軽に相談しやすい雰囲気づくりや、話し合いの機会を充実させることで、家庭と事業所が同じ方向を向いて支援を進められる環境を整えていく。
3	<ul style="list-style-type: none"> 活動プログラムが固定化されないよう工夫し、子どもたちに色々な経験ができる環境づくりを行っている。今年度は、これまで以上に固定していた活動内容を曜日固定へと変更したことで、見直しを持ちながらも変化のあるプログラム構成が可能となった。これにより、子どもたちが自分の興味や得意を活かしやすくなり、活動への意欲向上にもつながっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 子ども一人ひとりの得意やペースに合わせて参加しやすい環境づくりを進めることで、より主体的に活動に取り組めるよう工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後は、保護者や子どもの意見を丁寧に聞き取り、日々の活動に柔軟に反映し、適切な運用方法を検討していき、より満足度の高いサービス提供を目指していく。

	事業所の弱み (※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<ul style="list-style-type: none"> ・学校への送迎はあるが、平日の自宅への送迎体制が整っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・送迎車両の不足や、送迎に対応できる職員数の確保が難しいことが挙げられる。一方で、今年度から土曜・祝日に限り自宅送迎を開始したところ、保護者から好評を得ており、送迎サービスの必要性と期待の高さが改めて確認できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後は、この取り組みを継続しつつ、車両や人員の確保状況を踏まえながら、平日の自宅送迎の実施に向けて段階的に体制整備を検討する。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者会等の開催が少なく保護者同士の交流の機会や家族支援が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人員とノウハウの不足により企画に着手できず、優先順位が低いままになっていたことが、保護者・きょうだい支援の取り組みが実施されていない主な要因である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小規模で負担の少ない取り組みから始めていく。担当を設けたり、年間行事に計画し継続できる仕組みを検討していく。
3			

公表 保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 多機能型事業所手柄ひまわりホーム

公表日 2026年1月31日

利用児童数 36

回収数 22

	チェック項目	利用児童数				ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	95.5%	4.5%	0.0%	0.0%	・広いスペースがある。	・十分なスペースを確保しつつ、今後は個別に対応できる環境整備に努めていく。
	2 職員の配置数は適切だと思いますか。	90.9%	4.5%	0.0%	4.5%	・子どもの飛び出しが心配。	・安全に子どもを支援するため、十分な職員が確保できるよう取り組んでいく。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になってると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切にされていると思いますか。	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%		・こどもの年齢・発達段階に応じて、環境の見直しを定期的の実施する。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%		・毎日の清掃や感染症予防を徹底し過ごしやすい環境作りを努めていく。
適切な 支援の 提供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	95.5%	4.5%	0.0%	0.0%	・子どもがひまわりに行きたいと言っているので合っているとと思う。	・施設外研修参加の機会を確保し支援の質を向上させていく。
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	90.9%	0.0%	0.0%	9.1%		・面談や送迎時など、日常のコミュニケーションの中で支援内容を丁寧に説明する機会を設ける。
	7 こどものことを十分に理解し、こどもと保護者のニーズや課題が定期的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	95.5%	0.0%	0.0%	4.5%	・子どもがひまわりに行きたいと言っているので合っているとと思う。	・子どもの変化を見逃さないため、ケース記録や評価を定期的更新し、子ども一人ひとりを深く理解した上でもの子に合った支援を計画・実施する。
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」「本人支援」「家族支援」「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	90.9%	4.5%	0.0%	4.5%		・ガイドラインに沿った支援項目を設定し、具体的な支援内容を設定している。今後は、家族の負担感の把握、移行支援の記録整理をさらに充実させていく。
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%		・ケース会議で、計画の目標に対する進捗や課題を共有し、支援方法の見直しを行っている。
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%		・曜日ごとのプログラムを変更した。今後より細やかな活動プログラムを検討していく。
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	13.6%	13.6%	13.6%	54.5%		・現状では交流機会が十分に確保できていない。子どもたちが地域の中で自然に関わりを持てるよう、段階的に取り組みを進めていく方針。
	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	95.5%	4.5%	0.0%	0.0%		・今後も、丁寧にわかりやすい情報提供に努め利用開始時から安心してサービスを利用できる環境づくりを行う。
	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%		・この結果が維持できるよう取り組んでいく。
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	31.8%	13.6%	13.6%	40.9%		・今後は、両方法の工夫や内容の見直しを行い、保護者が参加しやすく必要な情報を受け取りやすい環境づくりを進める。
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%		・引き続き、安心して相談できる関係づくりと、質の高い情報共有に努めていく。
保護者 への 説明 等	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	95.5%	4.5%	0.0%	0.0%		・いつでも相談できる。安心して話せる関係づくりを継続し、子どもと保護者に寄り添った支援をさらに充実させていく。
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	・とても丁寧でありたい。	
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	4.5%	4.5%	36.4%	54.5%		・無理のない範囲で交流機会を検討し、保護者の意向を取り入れながら段階的に取り組む。
	19 こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	86.4%	9.1%	0.0%	4.5%		・相談窓口の周知、対応の見える化、日常的なコミュニケーションの充実を通して、子どもと保護者が安心して相談できる環境づくりをさらに進める。
	20 こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%		・この結果が維持できるよう取り組んでいく。

	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	81.8%	9.1%	0.0%	9.1%		・SNSの更新を積極的にしたり、周知の工夫をすることで、保護者が必要な情報をいつでも受け取れる環境づくりを進めていく。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%		・個人情報を大切に扱うという基本姿勢を今後も徹底し、安心して利用できる事業所づくりを継続していく。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	77.3%	9.1%	0.0%	13.6%		・各マニュアルを策定している。今後面談時等において保護者への周知を行っている。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	63.6%	0.0%	4.5%	31.8%		・避難・救出訓練は定期的に実施しているが、職員・保護者への周知が十分でなかった。今後は訓練予定と実施結果を掲示や配布物で共有し、周知徹底を図る。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	86.4%	4.5%	0.0%	9.1%		・安全計画を策定している。今後は面談時等において保護者への周知を行っている。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	95.5%	0.0%	0.0%	4.5%		・連絡方法と説明内容を明確化し、保護者への周知を徹底する。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%		・この結果が維持できるよう取り組んでいく。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	95.2%	4.8%	0.0%	0.0%	・家を出るとき、不機嫌でも楽しく活動できた日は笑顔で帰社している。 ・朝の電子ペーパーボードにはっている。 ・いつも楽しみにしている。	・利用児が楽しみを持って通所できるよう取り組んでいく。
	29	事業所の支援に満足していますか。	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%		・この結果が維持できるよう取り組んでいく。

公表 事業所における自己評価結果

事業所名		多機能型事業所手柄まわりホーム				公表日	2026年 1月 31日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		2つの部屋活動スペースと食事スペースに分け、活動スペースを確保している。またクールダウン等のために1人になれる場所を確保し提供している。	今後も個々の利用児に合わせて臨機応変に対応できるように環境整備に努めていく。	
	2	利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		子どもの体調や情緒の変化を職員間でこまめに共有し、その時々で必要な支援が届くよう、担当や立ち位置を柔軟に調整している。	子どもの状態変化を職員間でこまめに共有し、必要に応じて柔軟に職員を入れ替えるなど、配慮の工夫を行っている。	
	3	生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		予定を絵カードで掲示するなど、本人に分かりやすい環境を提供している。建物もバリアフリー化となっている。	基本的な安全面の配慮はできているものより安全に移動できるよう、家具配置の見直しなど細かな改善を行う。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		毎日の清掃と整理整頓で清潔な状態を保ち、また感染症対策を含めた衛生管理に努めている。	定期的に設備点検を行い環境改善を行っている。	
	5	必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		利用児の様子に応じて、クールダウンできる場所の確保や個人で使える部屋を確保し提供している。	必要に応じて個別のスペースの環境整備を考えていく。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		毎日の活動の内容、利用児の情報確認・課題検討を行い、終礼時に実践できたかどうか、反省点などを話し合う時間を確保している。	目標設定は部署ごとの意見交換を行い、職員の声を反映できる仕組みを整えさらに取り組みを強化していく。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		評価結果を次年度の計画や日常業務の見直しに活用し、継続的な質向上につなげている。	忙しい保護者への周知方法や提出しやすい仕組みが十分でなく、意向を十分に把握できない場合があるため配付や回収方法を検討する必要がある。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		毎日の終礼や会議で意見を発表する機会を設け、またその都度意見交換を行い業務改善につなげている。	参加できない職員が出ないよう、時間帯や方法を見直し、誰もが参加しやすい体制に改善する。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	現時点では第三者による外部評価は行っていない。	今後の検討課題とする。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		毎月1回、施設内研修と月1回全体研修を実施している。施設外研修にも積極的に参加する機会を確保している。	勤務シフトとの調整が難しく、全員が均等に受講できない状況がある。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		作成した支援プログラムは職員間で共有し、支援の統一性を図っている。	公表方法が限定的で、保護者や関係者に十分に伝わらない場合があるため周知してもらえ取組が必要。	
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		アセスメント内容を職員間で共有し、複数の視点で確認することで客観性を高めている。		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		現場職員の意見や日々の支援状況を踏まえ、子どもの最善の利益を考慮した検討を行っている。		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間で共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		支援内容や目標を共通理解できるようにしている。職員会議で計画の確認を行い、日々の支援の中で計画に沿った実践ができているかを振り返り機会を設けている。	情報共有の方法を見直し、誰でも確認しやすい環境をつくる。	
	15	子どもの適応行動の状況を、標準化したツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する癖により確認しているか。	○		毎日の小さな変化や癖の動きも把握できるよう、職員が継続的に情報を収集し、インフォーマルなアセスメントとして活用している。	利用日数が少ない子どもについては、日々の行動観察の機会が限られるため、インフォーマルなアセスメントが十分に行えない場合がある。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等サービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		ガイドラインに沿った支援項目を設定し、具体的な支援内容を設定している。今後は、家族の負担感の把握、移行支援の記録整理をさらに充実させていく。	計画のねらいと日々の支援内容を結びつけやすくするため、記録方法や確認手順を統一していく。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		プログラム作成会議を行い、活動内容について協議した上で立案している。	子どもの状況に応じて柔軟にプログラム内容を調整できる仕組みを整え、無理のない運営を図っていく。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		曜日ごとのプログラムを変更し、今後より細やかな活動プログラムを検討していく。定期的に職員間で意見交換をする場を設けている。	家族の要望も取り入れ、子ども達の視野が広がるようなプログラムを計画している。将来を見据えた個別支援、活動プログラムの提供を検討していく。	

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○	それぞれの利用児の状況に応じて、個別活動と集団活動を取り入れながらプログラムを提供している。	活動ごとの必要人員を再確認し、シフトや役割分担を見直しして安定した支援につなげていく。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○	朝礼時にその日の活動内容、プログラムを確認し、担当者を決めて職員全員が把握している。	急な予定変更や支援が複雑な日の場合には、役割分担の細目まで共有しきかないことがあるため、より効率的で確実な打合せ方法を考える必要がある。
	21	支援終了後は、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○	終礼時にその日の活動を振り返る時間を設け、明日からの支援に活かせるよう話し合いを行っている。	「否定しない」「まず受け止める」ルールを明確にし、新人職員にも必ず一言発言してもらうように取り組む。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○	支援終了後、毎日個別の支援記録を作成し、振り返りを行いよりよい支援が提供できるよう工夫している。	支援直後に拍時間を書けるよう記録用紙を近くに配置し効率よく進めていく。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○	半年に1度モニタリングを行っている。本人や保護者に定期的に聞き取りを行い計画の見直しを行っている。	モニタリング結果を職員会議やミーティングで必ず共有し支援方法の改善案をチームで検討する。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。	○	1つの活動に複数のねらいを入れている。	職員間で「どの活動がどの基本活動につながるか」を共有し、視点を統一していく。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○	選択しやすいように、写真カード・視覚支援を活用している。	引き続き選択場面を日常的に増やし、小さな選択から成功体験を積んだり、選んだ理由を丁寧に聞き取り、意思表明の機会を広げていく。
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参加しているか。	○	子どもの状況をよく理解した職員が参加できるよう、事前にスケジュール調整をして参加できている。	職員間での連携を強化し、子どもの状況を正確に伝えられるようつらつら準備を行う。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○	緊急時や変化があった際には迅速に関係機関へ連絡し、対応を協議できる体制を整えている。	医療機関との連携を強化するため、担当者会議やモニタリング時に医療機関を必ず確認し、支援に反映していく。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○	担当者会議や引き渡し時に学校と定期的に情報共有を行い、支援方針をすり合わせている。	職員間で学校から得た情報を共有し、支援に確実に反映できるようにする。
関係機関や保護者との連携	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○	保護者を通じた情報収集だけに頼らず、関係機関との連携を行っている。	担当者会議だけに頼らず、就学前施設と日常的に情報交換できる仕組みをつくっていく。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○		現在の所、事業所間でやりとりはないが、今後必要であれば連携を図っていく。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてサービスや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○		現在の所行っていないが、今後必要であれば積極的に活用を検討していく。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○		現在の所行っていないが、地域交流できる機会を設け等、できる限りの交流活動などは検討していく。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○	自立支援協議会子ども部門の会議に定期的に参加している。	
	34	戸頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	○	保護者の意見や希望を丁寧に聞き取り、支援内容に反映する姿勢を大切にしている。	子どもの変化や課題について、定期的な面談に加え、保護者の話を聞く機会を増やし共通理解を深めていく。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレントトレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		今後は、周知方法の工夫や内容の見直しを行い、保護者が参加しやすく必要な情報を受け取りやすい環境づくりを進める。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○	契約時に説明を行っている。	今後も保護者等に事業所運営の協力・理解を得られるよう誠実に対応していく。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○	子どもの意向と支援内容のすり合わせを丁寧にしている。支援計画作成前に保護者へ事前アンケートを行い、希望や課題を反映している。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○	契約時や計画書更新時に支援内容の説明を行い、同意を得ている。	
39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○	お困り時に職員と話す機会がある為、その時に相談があればその都度対応し、必要に応じて関係機関に繋げる等している。具体的な対応方法を提案し、問題解決に繋げている。	保護者が相談しやすい環境づくり（相談窓口の明確化・声かけ）をさらに強化していく。	

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。		○		無理のない範囲で交流機会を検討し、保護者の意向を取り入れながら段階的に取り組む。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		苦情があった際には、速やかに責任者へ共有し、迅速に対応できる体制を整えている。	引き続き丁寧に対応し、どんな小さな苦情でも迅速、誠実に対応していく。
	42	定期的な通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○		インスタグラムで日々の活動の様子を発信している。	SNSの更新を積極的に行ったり、周知の工夫をすることで、保護者が必要な情報をいつでも受け取れる環境づくりを進めていく。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		個人情報記載されている書類等は鍵付き書庫に保管している。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		視覚支援や手話、ツールを活用し、意思疎通ができるよう努めている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に関わられた事業運営を図っているか。		○	事業所内には招待は行っていないが、月3～4回事業所でパン販売を行い地域住民と積極的に交流している。	地域とのつながりがまだ弱いため、参加しやすい規模行事から取り組みを始めた。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		送迎時や面談時に、必要に応じて保護者にも対応内容を説明し理解を得ている。	マニュアルの内容が十分に浸透していないため、職員・保護者への周知をさらに強化していく。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		BCPを策定し定期的に避難訓練を実施している。また反省事項に基づき見直しを実施している。	今後も継続して取り組んでいく。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	○		アセスメント時に利用児の状況を保護者から聞き取りし情報共有している。面談時に変更がないか確認している。	今後も継続して取り組んでいく。
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		食物アレルギーの利用児については医師の指示書の提出を依頼しており、保護者と状況を共有している。	今後も継続して取り組んでいく。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		安全計画は作成している。研修や訓練も定期的に行っている。	安全管理に基づいた研修や訓練を充実させていく必要がある。
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		契約時や面談時に非常時の対応や避難場所について説明を行っている。	今後も継続して取り組んでいく。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討しているか。	○		ヒヤリハット報告書を作成し、今後の支援方法について職員間で話し合いを行っている。	ヒヤリハット発生時の振り返りを深め、具体的な改善策を職員全体で検討する体制を強化していく。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		虐待防止委員会を設置し定期的に委員会で話し合う機会を設けている。研修の機会も確保している。	計画的に研修機会を行う、研修の機会を増やしていく。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		契約時や面談時に説明し、個別支援計画に記載している。	身体拘束が必要となる場合の基準や手順について、子ども・保護者への説明をより丁寧に行っていく。	